

鶏の暑熱対策について

猛暑の夏がやってきました。鶏には汗腺がなく、暑くても汗をかいて体温を下げられません。体は羽毛で覆われており、暑さによる影響を受けやすい生き物です。

夏季の生産性低下を防止するために、適切な暑熱対策を講じ、あなたの鶏と経営を守りましょう。

1・鶏舎内温度と鶏への影響

暑がる行動①

開口呼吸や羽を広げて体を冷やそうとする行動が見られます。
(写真参照)



暑がる行動②

大量に水を飲む。飲んだ水が水下痢(水便)として排泄されます。

暑がる行動③

高カロリーな飼料を残すようになる。



- ✓ 飼料摂取量の著しい減少
- ✓ 破卵率上昇
- ✓ 死亡鶏増加



18~24℃
適温

飲水量の
増加

- ✓ 飼料摂取量の減少
- ✓ 産卵率・卵質低下

25

30

37℃超

2・暑い夏を乗り切るための対策

(鶏舎の対策)

- ☞ 換気、送風をしましょう。
- ☞ 屋根、壁への断熱材の利用、白色ペンキや石灰の塗布や日よけを設置しましょう。
- ☞ 屋根にパイプやスプリンクラーを設置し散水しましょう。
- ☞ 吸気口へのクーリングパッドの設置や吸気口付近への散水も有効です。
- ☞ 鶏舎周囲を寒冷紗や緑のカーテンで囲い、直射日光を遮断しましょう。
- ☞ こまめに除糞を行い、鶏舎内の発酵熱を減らしましょう。
- ☞ 鶏舎周辺に植物を植えて、地上からの照り返しを防止しましょう。

(鶏体への対策)

- ☞ 涼しい早朝や夜間の飼料給与(ミッドナイトフィーディング)も効果的です。
- ☞ 鶏舎内の飲水の温度を低く保つよう、給水器内の水を頻繁に入れ替えましょう。
また、ニップルドリンカーは末端を解放し、水温を低く保ちましょう。
- ☞ 不足しがちなビタミンやミネラルを普段より多く投与しましょう。

神奈川県県央家畜保健衛生所

〒243-0417 海老名市本郷3658

電話：(046)238-9111 ファクシミリ：(046)238-9124

東部出張所 〒226-0015 横浜市緑区三保町2076

電話：(045)934-2378 ファクシミリ：(045)934-5432

